

来年十一月に開館予定の県立美術館と博物館が県教育委員会(所管は教育庁)によって建設が進められている。県内の各美術関係団体や専門の大学関係者らから「基本計画」がゆがめられ、その建設と運営の在り方に多くの問題を含んでいるとして、再検討が指摘されている。同団体と関係者は去る十月二十一日に那覇市古島の教育福祉会館でシンポジウム(参加者二百人ほど)を開催、専門的立場から現代の美術館の役割やその運営と活動の在り方、単独機関としての重要性など議論した(琉球新報十月二十二日朝刊掲載/参照)。

県は財政難を理由に、役割が異なる美術館と博物館を統合し、

本計画に定められた、独立機関の「沖縄県立の美術館」が消滅する。全く理解し難いことであり、他府県の美術館関係者からも「前代未聞の文化施設建設準備室」の立派な看板が掲げられ、多くの県民の声にこたえられ、美術館の役割とその活動の重大さを示す特別室が設けられていた。その後、県政が

た専門的立場からの美術館活動の在り方や、専門的能力や情報蓄積が反映されなかったのが、県民にとって大きな損失であり重大な問題である(十二月八日、教育庁と美術館建設計画の新博物館建設計画の進行状況で、美術館建設計画も同時に抱え、教育庁の上部で両館がハード主体に建設が進められたことである。そのことが美術館軽視につながり「ボタンの掛け違い」を招いた要因と言わざるを得ない。



上原 誠勇

### 県立美術館の再検討を

## 独立した館長配置を望む

一元化した文化施設として建設を進め、館名も「沖縄県立博物館・美術館」とし、その施設館長を一人置くことしている。従って美術館独立の館長を置かないことになり、「基

一元化した文化施設として声が上がった。十数年前の大田県政時代にスタートした美術館建設は、その時点で

稲嶺知事に代わり、数年の凍結を経て日本復帰三十周年事業として再開したのは評価される。しかし、先の美術館建設準備室当時から委員(教育庁上部)である。先行していた

問題の根は美術専門家を置いてない県教育委員会(教育庁上部)にある。先行していた新博物館建設計画の進行状況で、美術館建設計画も同時に抱え、教育庁の上部で両館がハード主体に建設が進められたことである。そのことが美術館軽視につながり「ボタンの掛け違い」を招いた要因と言わざるを得ない。

「基本計画」がゆがめられ、その建設と運営の在り方に多くの問題を含んでいるとして、再検討が指摘されている。同団体と関係者は去る十月二十一日に那覇市古島の教育福祉会館でシンポジウム(参加者二百人ほど)を開催、専門的立場から現代の美術館の役割やその運営と活動の在り方、単独機関としての重要性など議論した(琉球新報十月二十二日朝刊掲載/参照)。

本計画に定められた、独立機関の「沖縄県立の美術館」が消滅する。全く理解し難いことであり、他府県の美術館関係者からも「前代未聞の文化施設建設準備室」の立派な看板が掲げられ、多くの県民の声にこたえられ、美術館の役割とその活動の重大さを示す特別室が設けられていた。その後、県政が

た専門的立場からの美術館活動の在り方や、専門的能力や情報蓄積が反映されなかったのが、県民にとって大きな損失であり重大な問題である(十二月八日、教育庁と美術館建設計画の新博物館建設計画の進行状況で、美術館建設計画も同時に抱え、教育庁の上部で両館がハード主体に建設が進められたことである。そのことが美術館軽視につながり「ボタンの掛け違い」を招いた要因と言わざるを得ない。

問題の根は美術専門家を置いてない県教育委員会(教育庁上部)にある。先行していた新博物館建設計画の進行状況で、美術館建設計画も同時に抱え、教育庁の上部で両館がハード主体に建設が進められたことである。そのことが美術館軽視につながり「ボタンの掛け違い」を招いた要因と言わざるを得ない。

「基本計画」がゆがめられ、その建設と運営の在り方に多くの問題を含んでいるとして、再検討が指摘されている。同団体と関係者は去る十月二十一日に那覇市古島の教育福祉会館でシンポジウム(参加者二百人ほど)を開催、専門的立場から現代の美術館の役割やその運営と活動の在り方、単独機関としての重要性など議論した(琉球新報十月二十二日朝刊掲載/参照)。

本計画に定められた、独立機関の「沖縄県立の美術館」が消滅する。全く理解し難いことであり、他府県の美術館関係者からも「前代未聞の文化施設建設準備室」の立派な看板が掲げられ、多くの県民の声にこたえられ、美術館の役割とその活動の重大さを示す特別室が設けられていた。その後、県政が

た専門的立場からの美術館活動の在り方や、専門的能力や情報蓄積が反映されなかったのが、県民にとって大きな損失であり重大な問題である(十二月八日、教育庁と美術館建設計画の新博物館建設計画の進行状況で、美術館建設計画も同時に抱え、教育庁の上部で両館がハード主体に建設が進められたことである。そのことが美術館軽視につながり「ボタンの掛け違い」を招いた要因と言わざるを得ない。

問題の根は美術専門家を置いてない県教育委員会(教育庁上部)にある。先行していた新博物館建設計画の進行状況で、美術館建設計画も同時に抱え、教育庁の上部で両館がハード主体に建設が進められたことである。そのことが美術館軽視につながり「ボタンの掛け違い」を招いた要因と言わざるを得ない。

(南風原町、画廊主、59歳)